



ダンスカフェサロン in あうるすぽっと 2017

現代舞踊学セミナー

全6回・各回120分(休憩有)・開場は開講の30分前

21世紀のダンス地図はめまぐるしく変化しています。20世紀においては、ロシア、フランス、アメリカ、英国、ドイツが世界のダンスシーンをリードしてきましたが、世紀末からは確固たる中心が消滅、多様化するダンス表現のなかでイスラエル、オランダ、ベルギー、カナダさらには北欧、東欧などからも個性的な振付家やカンパニーが台頭してきました。マーサ・グラハム、マース・カニングハム、ピナ・バウシュ、トリシャ・ブラウンなどダンスを革新・牽引してきた振付家が次々この世から去るこの新たな時代。舞台芸術としてのダンスは、技法やスタイルの変化だけでなく、混沌とする世界のなかで何を映し、我々の生きる今をどう表現しようとしているのでしょうか。

Dance Geography

ダンスカフェサロンは3年目。過去のセミナーではフランス・カナダ(ケベック州)・ドイツをテーマに海外のダンスシーン及び、国内のダンスアーカイブ(舞踊史)を取り上げて参りました。今回は、前期:舞踊評論家による「ダンスのジオグラフィー」を意識したシリーズ講座(8月・9月・10月)、後期:デザイナー、プロデューサー、演劇評論家をゲストに「ダンスの観方、読み方」講座(11月・12月・2018年1月)の全6回開催致します。

会場:あうるすぽっと3階 会議室A

料金:500円 予約優先制

企画:ダンスカフェ

お問合せ・ご予約:ダンスカフェ
dancecafe-21@kreb.biglobe.ne.jp
Tel:03-3975-6405

件名「ダンスカフェサロン申込」



- ①ご参加講座の日程
- ②お名前(同伴者の有無)
- ③ご連絡先(電話またはEmail)をお知らせください。

前期「ダンスのジオグラフィー」

1 8月12日(土)16:00
「アメリカンダンスの系譜:モダンとポストモダン」
講師:石井達朗(舞踊評論家)
ゲスト:折原美樹・加藤みや子

2 9月23日(土)15:30
「フィンランドのコンテンポラリーダンス:その魅力と進化」
講師:立木燁子(舞踊評論家・ジャーナリスト)

3 10月14日(土)19:00
「謎多きダンス大国イスラエル:その秘密を探る」
講師:乗越たかお(作家・ヤサくれ舞踊評論家)

※前期詳細は裏面を御覧ください。 ※敬称略
※講師、ゲスト、日時等、一部変更する場合がございます。



ライズアリーナビル3F
あうるすぽっと
豊島区立舞台芸術交流センター

東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7番出口より直結
JR他「池袋駅」東口よりグリーン大通り直達徒歩10分
都電荒川線「東池袋四丁目駅」より徒歩2分
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル3F
TEL.03-5391-0751
http://www.owlspot.jp

後期「ダンスの観方、読み方」

4 11月11日(土)19:00
「踊る衣装~スーパー歌舞伎から
バリ・オペラ座まで~」
講師:芳賀直子(舞踊史研究者)
ゲスト:毛利臣男(衣装デザイナー)

5 12月9日(土)19:00
「ベルギーダンス:
ローザスを中心にその魅力を語る」
講師:カテフミ(舞踊評論家)
ゲスト:前田圭蔵(プロデューサー)

6 2018年1月20日(土)16:00
「ダンスと演劇 — 身体と歴史」
講師:竹重伸一(舞踊評論家)
ゲスト:鴻英良(演劇批評家)



加藤みや子◎池上直哉



折原美樹 ◎John Deane, Miki and Stephen Pier

講師：石井達朗(舞踊評論家) ニューヨーク大学(NYU)大学院演劇科フルブライト研究員・同パフォーマンス研究科ACLS研究員などを経て、慶大名誉教授、愛知県立芸大客員教授。関心領域として、サーカス、アジアの身体文化、ポスト・モダンダンス以降のダンス、パフォーマンスアート、ジェンダー / セクシュアリティとパフォーマンス。朝日新聞、ダンスマガジンほか、さまざまな媒体に執筆。著書に『異装のセクシュアリティ』『身体の臨界点』『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『サーカスのフィルムロジー』『ポリセクシュアル・ラヴ』ほか

テロ・サーリネン◎YASKEI



『Double Exposure』
コンセプト/演出：アン・ソンス/ヴィッレ・ヴァロ
2017年9月22日(金)～24日(日) あうるすぽっと

講師：立木燐子(舞踊評論家・ジャーナリスト) ドイツの国際的舞踊専門誌「tanz (元 ballet tanz)」誌の在日コレスポンデント。ダンス専門誌及び一般紙誌で評論活動を展開。読売新聞で舞踊評を担当。編者書に『現代ドイツのパフォーマンス』『北欧の舞台芸術』(三元社)、S・J・ノヴァック『コンタクト・インプロヴィゼーション-交感する身体』(監訳、フィルムアート社)。アジア・ヨーロッパ・ダンス・フォーラムなど内外のプログラムでの講師、北欧国際振付賞、文化庁芸術祭審査員、新村英一記念ニムラ賞、江口隆哉賞選考委員等歴任。国際演劇評論家協会、舞踊学会、日本ダンスフォーラム会員。



オハッド・ナハリン◎飯島篤

講師：乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家) 株式会社ジャパン・ダンス・ブラグ代表。2006年にN.Y. ジャパン・ソサエティの招聘で滞米研究。07年イタリア『ジャポネ・ダンツァ』の日本側ディレクター。現在は国内外の劇場・財団・フェスティバルのアドバイザー、審査員など活躍の場は広い。著書は『コンテンポラリー・ダンス徹底ガイド HYPER』(作品社)、『どうせダンスなんか観ないんだろ?!』(NTT出版)、『ダンス・バイブル』(河出書房新社)。現在、月刊誌「ぶらあほ」でコラム「誰も踊ってはいらぬ」を好評連載中。

{ 第1回 } 8月12日(土) 16:00 開講

「アメリカンダンスの系譜：モダンとポストモダン」

講師：石井達朗(舞踊評論家)

ゲスト：折原美樹・加藤みや子

Lecture 1. 「マーサ・グラハムと折原美樹」

Lecture 2. 「加藤みや子、トリシャ・ブラウンを語る」

二人のゲストをお招きしてアメリカンダンスの魅力を紹介。モダンダンス、ポスト・モダンダンスの洗礼を受け70年代後半のアメリカンダンスを学び現在も舞踊活動を続けている振付家です。

折原美樹はモダンダンスの基礎を築いたマーサ・グラハム(1894-1991)が亡くなるまで同カンパニーの主要なメンバーの日本人ダンサーとして活躍し、グラハムの後継者として現在もグラハム学校講師と創作活動を展開中です。

加藤みや子はポスト・モダンダンスの流れを引き、日本的な感性も加わり内外で独自の展開をし1977年文化庁在外派遣研修員として渡米、アン・ハルプリンに出逢いNYで振付家たちと交流、特にトリシャ・ブラウン(1936-2017)に衝撃を受け研究、交流。そして2003年にポスト・モダンダンスの派生を探るためにNYでトリシャ・ブラウン回顧展を取材、トリシャの貴重なインタビューをしています。

石井達朗は80年代、アメリカの前衛劇やポスト・モダンダンスの研究でNYに在住。当時の状況をゲストと共に語ります。

{ 第2回 } 9月23日(土) 15:30 開講

「フィンランドのコンテンポラリーダンス：その魅力と進化」

講師：立木燐子(舞踊評論家・ジャーナリスト)

2017年独立100周年を迎えたフィンランド。本国フィンランドでは一年を通して記念行事が開催され、日本でもフィンランド国立バレエ団の初来日公演が実現するなど、この国の舞台芸術の魅力を紹介する多彩なプログラムが予定されています。本セミナーでは北欧のダンス事情に詳しい立木燐子を講師に、国際的に評価の高いフィンランドのコンテンポラリーダンスの最新動向をお伝えします。フィンランドが誇る振付家テロ・サーリネンの最新作『クレルヴォ Kurellvo』をはじめフィンランドのダンスの現在を映像をまじえて報告・解説します。また、9月に来日するフィンランドのシルコ(サーカス)の最前線に立つヴィッレ・ヴァロと韓国の振付家アン・ソンスのコラボレーション作品『Double Exposure』についても紹介します。

{ 第3回 } 10月14日(土) 19:00 開講

「謎多きダンス大国イスラエル：その秘密を探る」

講師：乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

ダンス大国としてのイスラエルは、だいぶ認知されてきた。コンテンポラリー・ダンスの中心だった西欧の影響を、独自の強烈なダンススタイルで跳ね返した、ほとんど唯一の国といえます。いまでは逆にイスラエルから優れた振付家を世界中に輩出しているほどです。これらの才能を生み出した秘密は何なのでしょう。2000年からイスラエルに通い、見続けてきた乗越たかおが、秘蔵映像と最新情報を交えて解説します。ちょうど今年には彩の国さいたま芸術劇場他でのパットシェバ舞踊団『ラスト・ワーク』公演、その芸術監督オハッド・ナハリンの超貴重映像満載の映画『ミスターガガ』上映、インバル・ピント&アブシャロム・ポラックによる百鬼オペラ『羅生門』といった、イスラエルを代表するアーティストの公演等が目白押し。それらを何倍にも楽しめるようになるでしょう。

ダンスカフェサロン in あうるすぽっと 2017 前期「ダンスのジオグラフィ」